

(調査様式1)

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 24年 9月10日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4691100038
法人名	社会福祉法人 椎原寿恵会
事業所名	高齢者グループホーム金峰やすらぎ館
所在地	南さつま市金峰町宮崎3992番地1 (電話) 0993-58-4075
自己評価作成日	平成24年 6月18日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=46
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉21かごしま
所在地	鹿児島市真砂町54番15号
訪問調査日	平成24年7月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点 (事業所記入)】

入居された方々への尊敬の念を持ち、その思いに耳を傾けることを重視しています。「生き甲斐を持てる暮らし」を確立するために野菜や花作りから、グランドゴルフなどの園外活動、家事全般に入居者の方々それぞれが活躍できる環境作りを行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点 (評価機関記入)】

ホームの周囲は静かでゆったりとした田園風景が広がり、金峰山が望める自然豊かな環境の中で落ち着いた雰囲気が漂っている。小学校や保育施設等も近隣に位置し、地域の子供たちとの交流も活発に行われている。ホームは協力医療機関との連携を密に図り、特に利用者の健康管理と安全確保に重点を置いて、日常のケアの充実に管理者と職員が一体となって取り組んでおり、利用者及び家族の安心に結びついている。

○ 毎朝早出の担当者が理念に沿った当日の目標を設定して日々の支援に反映させて、終業時には職員個々が反省点などをノートに記述して支援状況を振り返り、利用者が自宅で生活しているような雰囲気作りに全員が積極的に取り組んでいる。併せてホームに設置された接遇・美化・健康委員会など9つの委員会では、サービスの質向上を目指して日々取り組み、職員全員が協力して絶えず改善に努めている。

○ 自治会に加入し、地域のグランドゴルフや文化祭・祭り・清掃活動等には積極的に参加すると共に、日々の散歩や買い物の際には地域の人々と挨拶や話を交わすなど地域との交流は活発に行われている。また、保育園児との交流や小学生の職場見学及び高校生・専門学校生のボランティア、踊りやダンス・楽器の演奏等の来訪者の受入れも多く、利用者の楽しみにつながっている。

○ 利用者の友人・知人などの来所時の支援はもとより、年4回のホーム便りを、ご家族だけでなく、利用者の遠方の友人・知人も含めて、可能な限り送付することで利用者や地域の情報をお知らせして関係の維持に努めている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	スタッフで意義を踏まえた理念を作り、実践にしているが、まだまだ不足している点も多い。	職員全員で作成した事業所独自の理念に沿って利用者の人格を尊重し、個々に合った暮らしの実現を目指して日々取り組んでいる。毎朝早出の担当者が理念に沿った当日の目標を設定して朝礼で伝え、日々の支援への反映に努めている。また、月1回の接遇委員会では支援状況を振り返り、サービスの質の向上に向けて取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に参加し、グランドゴルフへの参加や地域内の散歩を行っている。不明時の協力もお願いしてある。	自治会に加入し、地域のグランドゴルフや文化祭・祭り・清掃活動等には積極的に参加している。保育園児との交流や小学生の職場見学及び高校生・専門学校生のボランティア、踊りやダンス・楽器の演奏等の来訪者の受入れも多く、利用者はこれらの交流を楽しみにしている。日常的には散歩や買い物に出かけ、地域の人々と挨拶や話しを交わす機会も多い。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	地域行事への参加や地域内への散歩で、ちょっとした援助で認知症の方はみなさんとかわらない生活を送れているのだと感じてもらっているのではと思っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の状況を報告していくなかで、地域代表の方や家族、行政の方からの意見を取り入れ、改善に繋げている。	会議は家族や地域住民・警察や行政の職員・民生委員等多くの参加を得て、ホームの活動や問題点を話し合い、そこでの情報や提案を職員で共有すると共に、日々のサービス向上に役立てている。家族の助言により外食の機会を増やしたり、自治会長からは地域の方々に利用者の見守りを呼び掛けて頂くなどの改善が実現している。また、外部評価の結果も家族や行政に郵送で報告している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	電話やメールで連絡をとりやすい環境が築けている。事故や感染症など市の担当者に、その都度指示を仰いでいる。	行政担当者とは運営推進会議の他に、各種の手続きや事故報告などの相談の際に必要な助言や対応をして頂くなどの連携を図り、サービス向上に取り組んでいる。また、各種の研修案内をはじめとする必要な情報も提供して頂くなど連携は図られている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	玄関のセンサー、自室の窓の開閉制限など抑制になるようなことは外してきたが、夜間は、玄関は20:00以降、自室やホールは17:30以降施錠をしており、起床時に開放している。	職員は連携を図りながら「見守り強化」の徹底に努めている。特に言葉をさえぎることや気持ちの押さえつけ・行動制限の防止には、日々のケアの中や職員研修会で繰り返し協議して理解を深めている。利用者が外出しそうな様子を察知した際は職員が同行し、地域の駐在さんとの連携や自治会長を通じて近隣の方々には見守りや声かけをしてもらえるような関係づくりにも努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年1回は資料を用いて虐待について理解を深めているつもりだが、言葉遣いなどまだまだ気になる点があるので、接遇委員提案にて毎朝注意を促している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	年1回は資料を用いて権利擁護とはどのようなものか理解してもらっている。機会があれば支援する体制はできている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	申込の時点である程度説明した上で申込をいただき、入居時の説明でも一方的に説明をするのではなく、その都度確認しながら説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	年1回の無記名のアンケートや担当者、管理者の両方から意見の言いやすい関係作りに努めている。	利用者の思いや意見は日常会話を通じて把握に努め、ご家族とは訪問時の対話や電話、年1回のアンケート等で意見や希望を頂いている。それらを朝礼や毎月の職員会議で全職員が共有して、サービスに具体的に反映できるように努めている。利用者の様子やホームの取り組み状況については、毎月の便りや訪問時の対話・電話等で家族に連絡している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	各検討委員会が改善したいことなど積極的に提案し、自分たちが「良くしていく」という意識を持ってもらっている。微妙なことは管理者が判断し、本部の意見を仰いでいる。	管理者は、朝礼や月1回の職員会議で職員やホームの活性化のために設置した9種類の委員会の意見や提案を聞き取り、業務改善や利用者へのサービス向上に反映するように取り組んでいる。特に職員会議は、勉強会やカンファレンスも兼ねて、活発な意見を交わしやすい雰囲気作りにも工夫している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	人事考課で実績や勤務の評価を行っているが、給与とかではなく、認知症の方との関わりの中から「やりがい」を見出せるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>資格取得や研修などスタッフ全員で協力して支援していけるように体制を整えている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>県・さつま半島認知症GH連絡協議会の活動の中で、他事業所との交流を図り、困難事例などへの意見もいただいている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族からの聞き取りや、傾聴することで本人の意向や不安を把握するよ努めているが、全スタッフが傾聴できてはいない。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	「入居したから一切のことを任せます」というのではなく、ご家族と一緒に支援していくということで、ご家族の意見を聞きながら行うことで関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時に家族から今後の意向も含めた聞き取りを行い、そのよっては他サービスの情報も提供し判断は家族に任せている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中で家事や作業を通して関係を築こうとはしているが、行動や発言から「介護している」という上から目線のスタッフがまだいて、完全ではない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、日常の様子を報告する中で、殆どの家族に定期的に支援してもらっているが、中には関係が希薄に思える方もおり、関係を築けていない方もいる。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	年2回の墓参り支援、馴染みの美容院がある方はお連れしているが、それ以外の支援についてはできていない。	利用者の友人・知人などの来所時には、ゆったりと過ごせるように支援することをはじめ、電話の取り次ぎや年賀状・暑中見舞い等の作成の支援も行っている。本人が希望する墓参りや、馴染みの商店などへの同行にも努め、その折に知人との交流も実現出来ている。また、年4回のホーム便りを利用者の友人・知人にも送付して関係の維持に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	家事や活動の中で、スタッフも間に入り関わり合える場をつくっている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された方は、ついでに寄ったり、家族や看護師から情報を得ている。退居された方の家族に会ったら近況を聞く。相談や支援は管理者が行う。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	自分の思いを言える方や、家族が代弁できる方は希望を聞けるので把握できるが、困難な方の本人本位な考えはまだまだ実践にいたっていない。	利用者ごとに担当職員を決めて日常会話やお茶の時間の会話及び利用者の所作観察から思いや希望をくみ取り、管理者・職員は意見交換して利用者本位の対応を検討している。また、ご家族とも密に意見を交換して希望・意向の把握に努めて支援への反映を図っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの聞き取り、情報提供など、本人との会話の中から把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活していく中で、できることや得意なことを把握していくように努めているが、状態によっては生活リズムを変えている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族には面会時など話せる時に意向を聞き、毎月ケース会議にて確認と変更について話あっている。	本人・家族から希望や意向を聞き、主治医や関係者・職員、特に利用者ごとに決めてある担当者から詳細な情報提供がなされ、参加者の意見やアイデアも反映させた介護計画が作成されている。定期的に、そして必要に応じて計画の見直し修正が適切に行われている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の記録の中から抽出すべき事柄については、連絡簿、気付きノート、看護師連絡簿に記載し、実践に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	担当者、各検討委員会、管理者それぞれ柔軟な対応を心掛けているが、		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のグラウンドを利用させてもらったり、歩いて近所の花を見に行ったりと、地域の中での暮らしに重点をおいている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問看護師と連携して健康管理を行う中で、必要な場合は受診に繋げている。普段は2週間に1回の主治医の往診がある。	協力医療機関をかかりつけ医としている入居者が多く、2週に1回は必ず往診を受けられると共に、訪問看護師の週2回の来訪があり、毎日を安心して過ごすことにつながっている。利用者それぞれのかかりつけ医との話し合いや情報交換も十分になされ、家族との連携も図られている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2回の訪問時に、看護師に気になることを伝えるだけでなく、看護師連絡簿を利用し共有を図り、薬剤の変更や受診に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医や相談員と連携して今後の生活について話し合いを行っている。話し合いの中で、お互いができる支援について決めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療連携体制の指針により説明を行っているが、不安に思われることはいつまで入居していただけるかなので、「望まれるなら最後まで」と説明しているし、スタッフにもその旨説明している。	医療連携体制があり、入居時に「医療連携体制の指針」及び「利用者及び家族の意向」（アンケート形式）により方針を説明し、同意を得ている。本人や家族と十分に話し合い、医師を始めとする関係者との連携を密にして、事業所で行える必要な支援を実施できる体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に訓練は行っており、AEDも導入し備えてある。夜間帯も連絡網により早急な対応ができるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>火災、地震想定した避難訓練を年2回行っており、避難経路も2方向確保し、2方向で訓練している。</p>	<p>消防署との連携のもと、年2回は火災と地震を想定した避難訓練を実施している。災害時を想定した自動通報装置やスプリンクラーも設置され、地域住民への協力依頼は運営推進会議でなされている。また、食料や飲料水等の備蓄も十分な状況である。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	毎月の職員会議に於いても毎回注意しているが一向に改善されない。接遇委員も勉強会や色々な案で改善に努めているが、改善されない。	利用者の人格を尊重し、日常のケアに際して尊厳やプライドを損ねるような言葉かけや言葉遣い等を行わないように、研修やミーティング等を通じて方法を共有して実践に取り組んでいる。また、接遇委員会でも利用者本位の対応に関して話し合い、サービスの質の向上に努めている。利用者の個人情報記録も事務所で適切に保管・保護されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションや声かけの仕方で本人に決めてもらうようにしているが、スタッフが勝手に決めているケースも多い。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	スタッフの数や集団での生活の中で、個々のペースではなく、大まかな流れの中で生活している時間が多い。そのような中で少しずつ希望を取り入れている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	自分の立場ならと思って選んでいるのか疑問を感じる格好も見られる。一部のスタッフは本人と一緒に衣類を選んだり衣替えをしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買物から調理、味付け、片付けと一連の家事は、朝食の調理以外は一緒に行ってる。	利用者と一緒に買い物に出かけ食材を選び購入している。また一緒に菜園の野菜を収穫し調理・盛り付け・食卓の準備・後片づけ等の一連の流れを利用者と共に行い、食事を楽しみながら行う雰囲気作りに努めている。また、テラスでの食事や季節に合った食事の提供、ソーメン流しやピクニックなどの外食も企画している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	健康委員や食事委員にて栄養のバランスや個々の状態に応じて食事量等を管理し、水分についても毎日摂取量を量っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯は毎日洗浄剤に浸けている。仕上げ磨きを行うようにしているが、していなかったり、全部スタッフがしたりとバラつきがある。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	チェック表で頻度など把握して、声かえ誘導を行うことで紙パンツの使用も減ってきている。	利用者の様子観察や排泄チェック表を活用し、利用者個々のリズムを把握して、誘導や声掛けを通じて排泄の自立のための支援を行っている。また、排泄委員会では利用者個々に合った取り組みの方針を話し合い、オムツの使用が減少するなど支援に反映させている。一連の工夫は必要に応じてケアプランにも組み込んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	歩行運動は毎日行うも、少ない時間、短い距離で大して影響ない気もする。便秘の及ぼす影響については理解していないスタッフが殆ど。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	毎日14:00～17:30の入浴時間内で、タイミングも考慮して入浴の支援を行っているが、支援する側の都合でメンバーが変わる日もある。	原則として毎日午後は入浴可能であるが、家族からの情報や本人の希望、健康状態や体調に沿ってタイミングよく対応するように努めている。不安や羞恥心等による入浴忌避者に対しては、職員の交替や言葉かけを工夫するなどして気分転換を図るなど、状況に応じた利用者本位の支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活リズムを考慮し、できるだけ日中は活動的に過ごしていただき、夜は個々の好きな時間にゆっくり休んでいただくように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は全員分管理しているが、既往の把握不足が、時折服薬を忘れることに繋がっている。現在は服薬を確実に行うことができれば良い方である。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	台所に入ったり、畑仕事をしたり、朝食を選択にして生活暦を重視している。園外に出る機会が無い時はテラスでお茶をしたりと気分転換を図っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	外出委員が計画をたて、年4回の外食、季節を感じられるようなドライブなど外出の支援は行っているが、本人の希望とはいえない。毎日1人はスタッフと買物に行っている。	日頃からホームの周辺の散歩や買い物、時には墓参りにも出かける支援をしている。天候により庭やテラスでのお茶会、近隣でのグランドゴルフを楽しむと共に、外出委員会の企画に沿って外食や遠足、季節ごとの花見など、可能な限り楽しく外出できるように工夫している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人でのお金の所持については制限していないが、入居時に保障しないことも伝えている。物盗られ妄想や他の方の部屋に入る方もいるため、基本的に預かり管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	年賀状と暑中見舞いはスタッフと一緒に書いて出している。電話は要望が無いので、荷物が届いた時はこちらから掛けている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	美化委員によって清潔は保たれていると思う。その季節の草花を飾ることで季節感はある。接遇委員により不快な音をたてないように注意しているので、以前よりは過ごしやすいつわられる。	共用空間はゆったりとしたスペースで明るく、室温や換気調節にも十分に配慮がなされている。畳のスペースや大きめのソファ・季節の花飾りなどが見られ、利用者にとって不快に感じる音や匂いなども感じられず、自由に、そして気持ちよくくつろげるような環境である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳やテラスがあるが、上手く活用されておらず、不快な思いをされている方もいるのではと思う。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>使い慣れた物があれば持ってきていただくようにしており、写真を飾ったりと少しずつ部屋らしい方が増えてきた。しかし、殺風景な部屋も未だある。</p>	<p>居室は事業所が準備したベッドや棚・エアコンの他に、利用者が使い慣れた生活用品・テレビ・椅子・ぬいぐるみ・写真などを自由に持ち込んで頂き、自分の部屋として落ち着いて過ごせる環境になるように支援している。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>声かけや見守りのみで入居者を把握できるようにしている。自室も誘導しなくてもいいように配慮されている。</p>	/	/

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	スタッフで意義を踏まえた理念を作り、実践にしているが、まだまだ不足している点も多い。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	自治会に参加し、グランドゴルフへの参加や地域内の散歩を行っている。不明時の協力もお願いしてある。		
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	地域行事への参加や地域内への散歩で、ちょっとした援助で認知症の方はみなさんとかわらない生活を送れているのだと感じてもらっているのではと思っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の状況を報告していくなかで、地域代表の方や家族、行政の方からの意見を取り入れ、改善に繋げている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>電話やメールで連絡をとりやすい環境が築けている。事故や感染症など市の担当者に、その都度指示を仰いでいる。</p>		
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>玄関のセンサー、自室の窓の開閉制限など抑制になるようなことは外してきたが、夜間は、玄関は20:00以降、自室やホールは17:30以降施錠をしており、起床時に開放している。</p>		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>年1回は資料を用いて虐待について理解を深めているつもりだが、言葉遣いなどまだまだ気になる点があるので、接遇委員提案にて毎朝注意を促している。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>年1回は資料を用いて権利擁護とはどのようなものか理解してもらっている。機会があれば支援する体制はできている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>申込の時点である程度説明した上で申込をいただき、入居時の説明でも一方的に説明をするのではなく、その都度確認しながら説明している。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>年1回の無記名のアンケートや担当者、管理者の両方から意見の言いやすい関係作りに努めている。</p>		
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>各検討委員会が改善したいことなど積極的に提案し、自分たちが「良くしていく」という意識を持ってもらっている。微妙なことは管理者が判断し、本部の意見を仰いでいる。</p>		
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>人事考課で実績や勤務の評価を行っているが、給与とかではなく、認知症の方との関わりの中から「やりがい」を見出せるように努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>資格取得や研修などスタッフ全員で協力して支援していけるように体制を整えている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>県・さつま半島認知症GH連絡協議会の活動の中で、他事業所との交流を図り、困難事例などへの意見もいただいている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>家族からの聞き取りや、傾聴することで本人の意向や不安を把握するよ努めているが、全スタッフが傾聴できてはいない。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>「入居したから一切のことを任せます」というのではなく、ご家族と一緒に支援していくということで、ご家族の意見を聞きながら行うことで関係作りに努めている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>入居時に家族から今後の意向も含めた聞き取りを行い、そのよっては他サービスの情報も提供し判断は家族に任せている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>生活の中で家事や作業を通して関係を築こうとはしているが、行動や発言から「介護している」という上から目線のスタッフがまだいて、完全ではない。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、日常の様子を報告する中で、殆どの家族に定期的に支援してもらっているが、中には関係が希薄に思える方もおり、関係を築けていない方もいる。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	年2回の墓参り支援、馴染みの美容院がある方はお連れしているが、それ以外の支援についてはできていない。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	家事や活動の中で、スタッフも間に入り関わり合える場をつくっている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された方は、ついでに寄ったり、家族や看護師から情報を得ている。退居された方の家族に会ったら近況を聞く。相談や支援は管理者が行う。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	自分の思いを言える方や、家族が代弁できる方は希望を聞けるので把握できるが、困難な方の本人本位な考えはまだまだ実践にいたっていない。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの聞き取り、情報提供など、本人との会話の中から把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活していく中で、できることや得意なことを把握していくように努めているが、状態によっては生活リズムを変えている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族には面会時など話せる時に意向を聞き、毎月ケース会議にて確認と変更について話あっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の記録の中から抽出すべき事柄については、連絡簿、気付きノート、看護師連絡簿に記載し、実践に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	担当者、各検討委員会、管理者それぞれ柔軟な対応を心掛けているが、		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のグラウンドを利用させてもらったり、歩いて近所の花を見に行ったりと、地域の中での暮らしに重点をおいている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問看護師と連携して健康管理を行う中で、必要な場合は受診に繋げている。普段は2週間に1回の主治医の往診がある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>週2回の訪問時に、看護師に気になることを伝えるだけでなく、看護師連絡簿を利用し共有を図り、薬剤の変更や受診に繋げている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>主治医や相談員と連携して今後の生活について話し合いを行っている。話し合いの中で、お互いができる支援について決めている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>医療連携体制の指針により説明を行っているが、不安に思われることはいつまで入居していただけるかなので、「望まれるなら最後まで」と説明しているし、スタッフにもその旨説明している。</p>		
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>定期的に訓練は行っており、AEDも導入し備えてある。夜間帯も連絡網により早急な対応ができるようにしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災、地震想定した避難訓練を年2回行っており、避難経路も2方向確保し、2方向で訓練している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	毎月の職員会議に於いても毎回注意しているが一向に改善されない。接遇委員も勉強会や色々な案で改善に努めているが、改善されない。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションや声かけの仕方で本人に決めてもらうようにしているが、スタッフが勝手に決めているケースも多い。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	スタッフの数や集団での生活の中で、個々のペースではなく、大まかな流れの中で生活している時間が多い。そのような中で少しずつ希望を取り入れている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	自分の立場ならと思って選んでいるのか疑問を感じる格好も見られる。一部のスタッフは本人と一緒に衣類を選んだり衣替えをしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買物から調理、味付け、片付けと一連の家事は、朝食の調理以外は一緒に行ってる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	健康委員や食事委員にて栄養のバランスや個々の状態に応じて食事量等を管理し、水分についても毎日摂取量を量っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯は毎日洗浄剤に浸けている。仕上げ磨きを行うようにしているが、していなかったり、全部スタッフがしたりとバラつきがある。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	チェック表で頻度など把握して、声かえ誘導を行うことで紙パンツの使用も減ってきている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	歩行運動は毎日行うも、少ない時間、短い距離で大して影響ない気もする。便秘の及ぼす影響については理解していないスタッフが殆ど。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	毎日14:00～17:30の入浴時間内で、タイミングも考慮して入浴の支援を行っているが、支援する側の都合でメンバーが変わる日もある。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活リズムを考慮し、できるだけ日中は活動的に過ごしていただき、夜は個々の好きな時間にゆっくり休んでいただくように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は全員分管理しているが、既往の把握不足が、時折服薬を忘れることに繋がっている。現在は服薬を確実に行うことができれば良い方である。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	台所に入ったり、畑仕事をしたり、朝食を選択にして生活暦を重視している。園外に出る機会が無い時はテラスでお茶をしたりと気分転換を図っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	外出委員が計画をたて、年4回の外食、季節を感じられるようなドライブなど外出の支援を行っているが、本人の希望とはいえない。毎日1人はスタッフと買物に行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>個人でのお金の所持については制限していないが、入居時に保障しないことも伝えている。物盗られ妄想や他の方の部屋に入る方もいるため、基本的に預かり管理している。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>年賀状と暑中見舞いはスタッフと一緒に書いて出している。電話は要望が無いので、荷物が届いた時はこちらから掛けている。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>美化委員によって清潔は保たれていると思う。その季節の草花を飾ることで季節感はある。接遇委員により不快な音をたてないように注意しているので、以前よりは過ごしやすいと思われる。</p>		
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>畳やテラスがあるが、上手く活用されておらず、不快な思いをされている方もいるのではと思う。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物があれば持ってきていただくようにしており、写真を飾ったりと少しずつ部屋らしい方が増えてきた。しかし、殺風景な部屋も未だある。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	声かけや見守りのみで入居者を把握できるようにしている。自室も誘導しなくてもいいように配慮されている。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない